

あきらめなければ不可能なことはない

今日は、校長先生が5年生と霧ヶ峰移動教室へ行っていますので、副校長先生が朝会のお話をします。

先週19日にリオ・パラリンピックが終わりました。8月のオリンピック、そして、9月のパラリンピックではたくさんの競技で日本人選手が活躍する姿を見て、いっぱい感動をもらったと思います。また、先週は放送委員会がオリンピッククイズを放送してくれましたね。いろいろ調べて、放送委員の子供たちは勉強になったことでしょう。

副校長先生もオリンピック・パラリンピックについて調べてみました。

オリンピック、パラリンピックではどれくらいの数のスポーツ競技が行われたと思いますか？リオ・オリンピックでは28競技で306種目も行われました。つまり308人の金メダリストが誕生したことになります。

パラリンピックでは22競技でした。中にはパラリンピックだからあるスポーツもあります。今回のリオパラリンピックで銀メダルを取った「ボッチャ」 ロンドンパラリンピックで金メダルを取った「ゴールボール」など聞いたことがある人もいると思います。

種目数は528種目もあります。オリンピックより222種目も多いです。

どうしてでしょう？それは、それぞれの選手の体の特徴に応じて種目が細かく分かれているからです。例えば陸上競技の走る種目では車いすを使って競争する種目、義足とって走るための補助の道具をつけて競争する種目、目の不自由な選手はガイドと言って一緒に走る人をつけて競争する種目もあります。選手の特徴が十分発揮できるように細かく種目が分かれているから528種目もあるのです。

パラリンピックの選手を見ていると、どの選手も体に不自由なところがあっても、それを乗り越えて、不自由どころかそれ以上にすごい力を身に付けていることに驚かされます。

エジプトのパラリンピアン卓球選手のイブラヒム・ハマトさんは幼い頃に列車事故で両腕を失います。始めはサッカーをやろうと思いましたが、あえて、腕を使うスポーツ卓球を選んだそうです。ラケットを口で扱い、ボールは足で投げ上げて戦う姿には驚いた人も多かったと思います。ハマト選手はインタビューでこんなことを言っています。「腕がないことが問題ではない、腕がなくて何もできないと思うことが問題だ。」「あきらめなければ不可能なことはなにもない。」素晴らしい言葉ですね。

オリンピック・パラリンピックの選手からはスポーツの勝ち負けだけではなく、その選手の生き方から学ぶことがたくさんあります。

学校では、図書室にオリンピックやパラリンピックで活躍した選手の生き方を知ることができる本をたくさん用意しています。是非みなさんも、様々な選手の生き方を知り、自分の成長のエネルギーにして欲しいと思います。